

一心寺かわら版

第四十八号 令和二年一月発行

ホームページ・ブログ・フェイスブックは「持名山一心寺」で検索

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は護持運営にご協力いただき

誠に有難うございました。本年もよろしく

お願い申し上げます。南無阿弥陀仏

お寺の掲示板大賞特集!

昨年、注目を浴びたお寺の掲示板大賞。今年も盛り上がりました。十一月十三日、NHK「あさいち」で特集され、昨年の一心寺の受賞作「君たちがいて僕がいる」(チャーリー浜)も取り上げられました。

アナウンサー「気になるものありますか? 本上さん?」

本上まなみさん「やっぱりチャーリー浜さん、素晴らしいですね」

アナウンサー「有名人の言葉も仏の道には



繋がっていくのですか?」

江田智昭さん「このチャーリー浜さんの言葉というのは、すべてのは関係性を持っていて、すべてのもののおかげで今、自分が成り立っているという縁起という仏教の重要な教えがあるんですが、この「君たちがいて僕がいる」はまさにこの縁起の教えを一言で言い表したものですね」

柴田理恵さん「チャーリー浜さんはそれをわかっておっしゃっておられたんですね」

江田智昭さん「いやあ、わかってるかどうかはわかりませんが、すごいです。深いです」

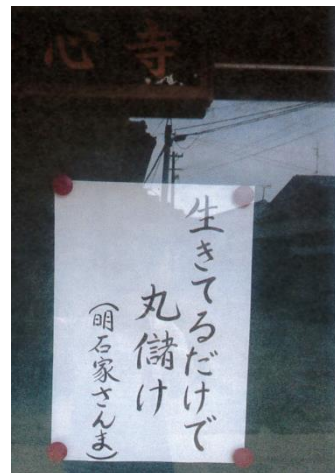
博多華丸さん「正式には「君たちがいて、あつ、僕がいる」なんですけどね」

九月にはお寺の掲示板大賞の企画者でもある、「あさいち」に出演されていた江田智昭さんによる本も出版されました。三十九作品中で二つが一心寺の掲示。受賞作に加えて「生きてるだけで丸儲け」(明石家さんま)も取り上げられました。以下、江田さんの解説を転載します。

日本のお笑いBIG3の一人、明石家さんまさんを知らない人はいないでしょう。彼の座右の銘で、色紙にもよく記していたという言葉が、この「生きてるだけで丸儲け」です。丸儲けというと、「坊主丸儲け」のように揶揄する言葉にも聞こえますが、さんまさんはなぜこの言葉を座右の銘としたのでしょうか。

一九八五年に日本航空123便が墜落事故を起こし、五百二十名が犠牲になりました。この便にさんまさんも搭乗予定だったそうですが、





収録が早く終わり、一便早めたため、同便に乗らずに済んだそうです。「生きてるだけで丸儲け」という言葉には、さんまさんが心の底から感じていた気持ちがあらわれているのでしよう。大竹しのぶさんとの間に生まれた「いまる（芸名IMALU）」さんの名前もこの言葉から取られているそうです。

誰しも人生の中でうまくいかないこと、さまざまな経験をします。さんまさんは「生きてるだけで丸儲け」という言葉を何万回とファンのために書き続けることによって自分自身へ暗示をかけていたのではないかと思います。

この考え方が自分の身体の中に完全に浸透すれば、すべてのことが当たり前でなくなります。このことにより、どんな状況に置かれても幸せな気持ちで生きていくことができるのです。さんまさんは、若手の頃の経済的に恵まれていなかった時代を自虐的なネタにすることがあります。彼の名言に、「人間生れて来た時は裸。死ぬ時にパンツ一つはいていたら勝ちやないか」というのがあります。

禅には「本来無一物」という言葉があり、相国寺（京都）の有馬頼底老師が、以前あるテレビ番組で「本来無一物」を説明する際に、このようにおっしゃっておられました。「本来自分のものだと、『おれが』とか、『これは私のものだ』という執着心、これがさまざまに形で人間を阻害しております。本来何一つ持って生まれたわけではなく、何一つ持って死ぬわけじゃない。これさえしっかり胸におさめておけば、ほんとに素晴らしい生き方ができるんじゃないか。これが禅の生き方なんです」

この言葉を踏まえると、さんまさんの二つの言葉はまさに禅的な雰

囲気を帯びていると言えるのではないのでしょうか。「命一つ、パンツ一つでも」という彼の幸せへの目線の低さが、四十年近く続く人気の秘密なのかもしれません。

さんまさんは師匠である故笑福亭松之助さんに深く影響を受けました。先日、松之助さんの本を読みましたが、かなり仏教に造詣が深かったらしく、仏教の言葉が散見されました。「内山興正老師（曹洞宗僧侶）の本を読んでいるうちに、人間は『生かされて生きている存在である』ということを教えられました。偉そうな顔をしていても、空気がなければ生きられません。水がなければ生きては行けません。つまり天からの授かりもので生かされているのです」（笑福亭松之助）『草や木のように生きられたら』ヨシモトブックス）

さんまさんの考え方はこのような松之助師匠の価値観から影響を受けたのでしょうか。本当に心豊かな人間は、どんな小さなことに対しても感謝の気持ちを覚えるものです。幸せになる人生哲学を語り、自分でも実践し、人々を笑いの渦に巻き込む。明石家さんまさんは、やはり天才だと思います。

39 チャーリー浜のギャグ



チャーリー浜さんは吉本新喜劇を舞台にコメディアンとして長年活躍され、「くじやありませんか？」というギャグで一九九一年に流行語大賞を受賞しました。まさに吉本新喜劇の存在を日本全国に知らしめた第一人者です。そのチャーリー浜さんのもう一つの有名なギャグがこの「君たちがいて、僕がいる」。

四十代以上の人たちの大半は、このフレーズを覚えていないのではないのでしょうか。

「なぜチャーリー浜がお寺の掲示板に？」と思われる方もいるかもしれませんが。これはこの本の中で何度も登場している縁起の教えにも通じる言葉なのです。『自説経』の中にこのような言葉があります。

「これあるが故にかれあり、これ起こる故にかれ起こる、これ無きが故にかれ無く、これ滅する故にかれ滅す」

これは、すべてのものはお互いに深くかかわりあいながら成立しており、完全に独立して存在しているものはないことを意味しています。「君」と「僕」を私たちはいつも分けて考えます。「分けることはわかること」という言葉があるように分けて考えることによって理解が進むこともありませんが、それぞれが比較の対象になり、そこから生まれる優劣感や嫉妬や憎悪が発生し、苦しみが起こる原因にもなります。ですから、「君と僕がつながっている」という視点を持つことが仏教的なスタンスだといえるでしょう。

今年の大賞は「衆生は不安よな、阿弥陀動きます」でした。吉本興業の闇営業騒動を受けて、松本人志さんが発した「後輩芸人たちは不安よな、松本動きます」をもじったものだと思います。浄土真宗のご本尊は阿弥陀さま、一心寺のご本尊は木像です。阿弥陀さまは前のめりにまさに今、足を前に出そうという姿で表現されています。これは阿弥陀さまが苦しむ人々を救おうという動き、今まさににはたらいっていることを示したものです。私たちの不安に居ても立っても居られないのが仏さまのお慈悲なのでしょう。

仏教に出会うと、様々な言葉が仏の声となって聞こえてくるような気がします。お寺の前を通った際は掲示板に目を向けてみませんか。「その言葉は風雨にさらされながら、じつとあなたが通りかかるのを待っている。あなたの心の琴線を狙いながら」釈徹宗氏。

二〇一九よるしるべ&よるしらべ報告

恒例となった「よるしるべ」。今年も観音寺の夜のまちがアート作品で彩られました。一心寺では今回も有明浜の波が出現。その横を陶器の灯りが彩りを添えました。子供がたぬきに扮した映像作品が各所に投影されたこともあってか、ご家族での来場が多かったように思います。世代を問わずに楽しめるイベントになればと思います

「よるしらべ」は二本立て。西讃地区の声讃会が出演した、十月二十六日の声明雅楽コンサート。『正信偈』には、葬儀などで使用する早読みの「舌々」、日常使用している「中拍子」、それと似た地域に伝わる「同行節」、そして今回唱えた「墨譜」があります。墨譜は、全ての句に節が付いており、慣れ親しんだ正信偈が違って聞こえたのではないかと思います。今回も和蠟燭のみで照らされ輝く厳かな本堂で、大勢の方にお参りいただきお念仏させていただきました。

十一月一日は東讃地区中心の和鳴会出演の舞楽。まずは「蘭陵王（らりんりょうおう）」。北斉の蘭陵王長恭は、武勇の將軍でしたが、その美しさから味方の兵士が彼に見とれて戦さをしようとしませんでした。そこで恐ろしい仮面を着けて勝利したという故事に基づいています。龍を頭に戴き、あごを吊った仮面が特徴で、走舞（はしりまい）という勇壮な舞です（写真下）。続いては「落蹲（らくそん）」。蘭陵王に對



する答舞（とうぶ）で、ふつうはふたりで舞い、「納曾利（なそり）」が正式な名称ですが、一人で舞うときにかぎって「落蹲」と呼びます。雌雄の龍が遊ぶ姿といわれ、双龍舞の別称があります（写真上）。左方と右方がセットになって番舞（つがいまい）と言われる演目で、衣装、動き、演奏される楽器、リズムなどに違いをお楽しみいただきました。



真宗教団連合香川県支部間法大会報告

十月九日、綾歌アイレックスにて、間法大会が開催されました。「心理療法と他力」というテーマで真宗大谷派住職、心理療法士、医学博士でもある大住誠氏の講演でした。

心理学の専門用語も交えた難しい話もありましたが、箱庭療法などの解説に多くの方が聞き入っていました。河合隼雄氏の心理療法に、1、医学モデル、症状↓面接、自由連想↓病因の発見↓情動を伴う病因の意識化↓治療。2、教育モデル、問題↓調査、



面接↓原因の発見↓助言、指導による原因の除去↓解決。3、成熟モ

デル、問題↓治療者の態度により↓クライエントの自己成熟過程が促進される↓解決が期待される、がある。河合氏は充分に言及しなかったが、4番目として、自然モデルがある。「無量寿経」には、第十九願・自力の修行によって、第二十願・自力の念仏によって、第十八願・自然、本願の念仏によって浄土に往生するという道を説かれる。浄土真宗は、阿弥陀さまの本願のはたらきによって浄土に往生する第十八願を根本とする。これが先程の心理療法の1〜4のモデルに重なり、浄土真宗は、4、他力（自然）モデルであろう。

自然とは、「○○すれば○○になる」からの解放である。人間は、こうありたい、こうあらねばならないと思って、そうならないことに苦しみ悩んでいる。そうではなく、あるがまま、心の自然を取り戻すことが大切。私には自然と一つになるはたらきが元々備わっている。これが浄土真宗の「おまかせ」の境地、阿弥陀のはたらきを間違いないく受けており、浄土に生まれ往くのだとおまかせするということに通じていると感じました。

秋季永代経報告

九月二十七日、心配された雨も午前中で上がり、納骨堂で讚仏偈、本堂で正信偈をお勤め。法話は佐々木安徳師（高松市専光寺）。私たちの願いは、物質、立場、健康。若いうちは物やお金が欲しい。地位に固執する。しかし、年を寄せるとだんだんと健康が一番の願いになる。健やかに、康らかにというのが仏さまの願い。南無阿弥陀仏は仏さまから私たちへ健やかに健やかに生きてほしい。安らかな浄土への人生を歩んでほしいという呼びかけ。ご一緒にお念仏を称えさせていただきます。

